



「六本木アートナイト 2016」開催テーマ、メインビジュアル発表！
『六本木、アートのプレイグラウンド ～回る、走る、やってみる。～』
メインプログラムアーティストに名和晃平氏を起用し、主要プログラムが決定

六本木アートナイト実行委員会は、「六本木アートナイト 2016」を2016(平成28)年10月21日(金)から23日(日)までの3日間開催いたします。

今回のテーマは「六本木、アートのプレイグラウンド～回る、走る、やってみる。～」。メインプログラムのアーティストには、現代美術家の名和晃平氏の起用が決定いたしました。国内外で幅広い活動を展開し高い評価を受け注目を浴びている名和氏が六本木を舞台にどのような作品を展開するのか、ぜひご注目ください。

また、今年のテーマを表現したメインビジュアルは、グラフィックやモーショングラフィックを中心に、多様な領域で活動するgroovisions(グルーヴィジョンズ)がデザインし、「六本木アートナイト 2016」のアイコンとして展開してまいります。

六本木アートナイト 2016:テーマ

「六本木、アートのプレイグラウンド～回る、走る、やってみる。～」

私たちは子供の頃、公園や空き地、道路の片隅など、どこでも面白そうな所を見つけ、そこを自分たちだけのプレイグラウンド(遊び場)にして友達と遊びまわりました。泥だらけになり、時には傷を作ったりしながら、夢中になり、時間を忘れて走り回ったものです。そこは、未知の物・人との出会いの場でもあったのです。

今回のアートナイトでは、アートの周りに、多様な人が集い、参加し、日常で忘れかけた無邪気な頃の思いを蘇らせます。アートを自分の目で見て、聞いて、触れて、体感する、古いけれど新しい「リアル」な感覚を楽しむ週末を、六本木で過ごしてみませんか？



六本木アートナイト 2016 メインビジュアル

【六本木アートナイト 2016 開催概要】

■正式名称: 六本木アートナイト 2016

■日時: 2016(平成28)年10月21日(金)17:30～10月23日(日)6:00
＜コアタイム①＞10/21(金)17:30～24:00
＜デイトタイム＞10/22(土)11:00～17:30
＜コアタイム②＞10/22(土)17:30～10/23(日)6:00

※コアタイム・デイトタイムはパフォーマンスやワークショップ等イベントが集積する時間帯です。

■開催場所: 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

■入場料: 無料(但し、一部のプログラム及び美術館企画展は有料)

■主催: 東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

■公式サイト: <http://www.roppongiartnight.com>

■お問合せ: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

報道関係のお問い合わせ

六本木アートナイト 2016 広報プロモーション事務局(株式会社ブラップジャパン内)

担当: 飯島、高橋、南宮(なんぐう)

TEL: 03-4580-9109 FAX: 03-4580-9135 MAIL: artnight2016@ml.prap.co.jp



【実行委員長：南條史生コメント】

今年の六本木アートナイトは、六本木をプレイグラウンド、つまり遊園地のようにしてみよう、ということがテーマです。そこには子供の頃に走り回った遊園地や校庭、裏庭のような楽しく自由に遊び回れるみんなの広場という意味が込められています。そしてそんな広場では、子供たちは走ったり、投げたり、競争したり、遊びとスポーツの原点が混じって楽しい時間を作り出していたのではないのでしょうか。2020年にオリンピック・パラリンピックを迎える東京。そんな東京にふさわしいプレイグラウンドを用意しました。今年は世界各国から集まったアートやパフォーマンスが入り乱れて、大勢の参加者を楽しませてくれるでしょう。



Photo : Makiko Nawa

メインアーティスト：名和晃平

プロフィール：

1975年大阪生まれ。彫刻家。1998年京都市立芸術大学美術科彫刻専攻卒業。2000年同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2003年同大学大学院美術研究科博士（後期）課程彫刻専攻修了。2009年京都・伏見区に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げる。2011年、東京都現代美術館で個展「名和晃平-シンセシス」、2015年スカイザバスハウス及びPACE LONDONで個展「FORCE」を開催。画素のPixelと細胞のCellを組み合わせた独自の「PixCell」という概念を機軸に、ビーズ、プリズム、発泡ポリウレタン、シリコンオイルなど様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を広げている。京都造形芸術大学大学院美術研究科教授。

<名和晃平作品>



メインアーティスト 名和晃平
photo : Nobutada OMOTE | SANDWICH



《Foam》
2013
mixed media
dimensions variable
installation view, AICHI TRIENNALE 2013, Aichi
courtesy: Aichi Triennale 2013 and SANDWICH, Kyoto
photo: Nobutada OMOTE | SANDWICH



Installation view: mission [SPACE x ART] – beyond
cosmologies, Museum of Contemporary Art Tokyo, Tokyo
2014
courtesy: SCAI THE BATHHOUSE, Tokyo
photo : Nobutada OMOTE | SANDWICH



《PixCell-Deer#24》
2011
mixed media
h:2020 w:1820 d:1500 mm
collection: The Metropolitan Museum
of Art, New York, USA
courtesy: SCAI THE BATHHOUSE,
Tokyo
photo: Nobutada OMOTE | SANDWICH

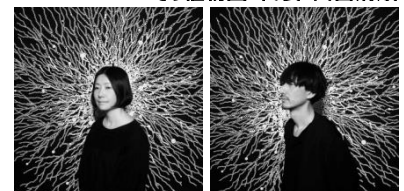
メインプログラム：

現代アーティストとして活躍の場を世界に広げている名和晃平が、希少植物を追って世界中を飛び回るプラント・ハンター「西島清順」、バルーン（風船）の既成概念をさらりと覆す大胆な発想でファッション業界からも高い評価を得ているバルーン・ユニット「デージーバルーン」とタッグを組んで、六本木アートナイト 2016 の“メインプログラム”に挑みます。

六本木ヒルズアリーナ、国立新美術館、東京ミッドタウンの3ヶ所を舞台に展開されるメインプログラムのコンセプトは、“六本木の「森」で迎える、文化の夜明け”。目に見えるものから、目に見えない“気配”にいたるまで、名和の研ぎ澄まされた感性と、西島清順、デージーバルーンの個性がどのような化学反応を生み出すのか、ご期待ください。



そら植物園 代表 西島清順



デージーバルーン（細貝里枝/河田孝志）



【「六本木アートナイト 2016」 広域プログラム】

六本木の街中で繰り広げられるアートプログラムによって見慣れた街の風景が一変します。数々の作品がエリアを繋ぎ、六本木の街歩きを楽しむことができます。

■カンパニー・デ・キダム《誇り高き馬》

フランスを拠点として国際的に活動しているスペクタクル・パフォーマンスグループ「カンパニー・デ・キダム」が、新作《FierS à Cheval～誇り高き馬》を携えて六本木アートナイトのために来日します。奇妙な白い衣装を着たパフォーマーたちが登場し、宇宙をイメージさせるシンフォニーや馬のいななきとともに、光り輝く馬へとトランスフォームします。リングマスターが、光る馬たちに力を与え、ダンスをしたり、観客に歩み寄ったり離れたりと戯れます。平和と純真さ、魂をシンボライズした白く光り輝く馬たちが夢の中で交差する幻想的なパフォーマンスが、六本木ヒルズ、国立新美術館、東京ミッドタウンに出現します。

※六本木アートナイト 2010 《ハーバートの夢》で絶賛されたカンパニーの再来日公演です。

- ・日時：10月21日(金)、22日(土) ※時間は後日決定となります。
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ、66 プラザ、国立新美術館(西門～スロープ～正門)、東京ミッドタウン プラザ 1F



© Marc Van Canneyt



© Laurine Schiavon



© Cie des Quidams

■東京キャラバン

同時開催プログラム*

東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムを先導する都のリーディングプロジェクトとして、野田秀樹が発案した「東京キャラバン」に賛同する多種多様なアーティストが出会い“文化混流”することにより新しい表現が生まれるというコンセプトを掲げた新たな文化ムーブメント。2015(平成 27)年駒沢オリンピック公園で公開ワークショップが実施され、2016(平成 28)年はオリンピックが開催されるリオデジャネイロで、才能溢れる様々なジャンルの日本人のアーティストが、現地のアーティストと出会い、国境、言語、文化、それぞれのジャンルを超えた文化混流ワークショップを行い創作します。そして、ブラジルを出発点とし、東京キャラバンは福島、宮城で創作ワークショップを行い、その出会いから創出された文化サーカスを「六本木アートナイト」のメインステージで繰り広げます。

- ・日時：10月21日(金)、22日(土) ※時間は後日決定となります。
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ
- ・主催：東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
- ・参加アーティスト：野田秀樹、東京スカパラダイスオーケストラ、津村禮次郎、井手茂太、演劇アンサンブル 他



2015 年駒沢オリンピック公園での公開ワークショップの様子
撮影:井上嘉和



街なかインスタレーション

街なかのお店やストリート、公園などに作品を点在させることにより、六本木の街の魅力を発見する場をつくり出しています。様々なインスタレーション作品や、「オープンコール・プロジェクト^{*2}」採用プログラムなどを展開します。

<主なプログラム>

■チェ・ジョンファ《フラワー・シャンデリア》

巨大な蓮の花など、これまでも数多くの花をモチーフにした作品を制作してきたチェ・ジョンファですが、今回はその中でも一際目を引くフラワー・シャンデリア・シリーズを発表します。大量生産される玩具のようなポップな色彩の巨大な花のシャンデリアは、フィンランドのヘルシンキ現代美術館で今年開催されたチェ・ジョンファの回顧展「happy happy」でも話題になった作品です。今回は設置場所となるメトロハットのスケールに合わせて制作された新作を発表する予定です。

- ・日時：10月21日(金)～23日(日)
- ・場所：六本木ヒルズ メトロハット



《Flower Chandelier》,2012

■チェ・ジョンファ《Love Me》

光沢のあるピンクの布で作られた、背中に羽の生えた巨大なブタのバルーンを発表します。呼吸するかのように背中の羽がゆっくりと動きながら、観る人を楽しませてくれます。韓国では、ブタは幸運、富や繁栄などを象徴し、ブタのピンクの布や中身が空っぽであるバルーンという形態は、大量消費社会の空虚さなど、現代社会の抱える問題も映しているのかもしれませんが、楽しいだけではなく、作品を通して私たちの生活を見つめ直すきっかけになる作品です。

- ・日時：10月21日(金)～23日(日)
- ・場所：六本木ヒルズ ウェストウオーク 2F 南側吹抜け



《Love Me》,2013

■ツァイ・クエンリン(蔡坤霖)《未定(新作)》

ツァイは、樹脂パイプや木材を用いた作品を制作し、鑑賞者を作品に参加させるかたちで、彼が関心を抱く問題に鑑賞者を導いています。音を作品に多用し、今回のプログラムでも世界各地で集めた音が聞こえるように樹脂パイプで装置をつくり、六本木にいながら海外の街にいるような不思議な体験ができる作品を制作する予定です。

- ・日時：10月21日(金)～23日(日)
- ・場所：六本木ヒルズノースタワー前

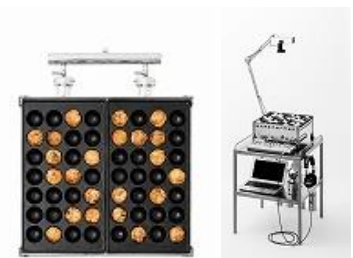


《As we hear/say》, 2015

■八木良太《たこ焼きシーケンサー》

たこ焼き器上部に設置したカメラから取り込んだ映像をリアルタイムに解析処理し、たこ焼きの配列を音に変換する装置で、たこ焼きの焼き具合に合わせて 7×8 のグリッドによるループ音楽が生成されます。解析アプリケーションはプログラマー/アーティストの真下武久によるもので、たこ焼きが焼き上がってゆくプロセスが音楽に変換される、料理と音楽が融合したメディア作品です。

- ・日時：10月21日(金)～23日(日)
- ・場所：六本木ヒルズ ヒルサイド 1F



《たこ焼きシーケンサー》,2014
撮影: Omote Nobusada

■後藤映則《toki- serise_#00 (トキ シリーズ #00)》

普段から当たり前と感じている時間。しかし、時間そのものを見ることはできないし、触ることもできません。よくよく考えてみると、かなり不思議で謎めいています。時間について考えていくと「変化」と強い関係で結ばれていることに気づきました。本作品では変化を繋いで時間の実体化を試みています。一見、白い塊にしか見えませんが、光のスリットを投射すると切り取られた時間が再生されます。まるで生きているかのように。

- ・日時：10月21日(金)～23日(日)
- ・場所：六本木ヒルズ ウェストウオーク 2 階



©AKINORI GOTO

「オープン・コール・プロジェクト」^{*2} 採用プログラム



■アンドレアス・グライナー、タイラー・フリードマン《未定》

アンドレアス・グライナーのコンセプトに基づき構成された空間で展開する、音と光を使った神秘的なインスタレーション作品です。漆黒の闇の中、タイラー・フリードマン作の楽曲が演奏され、それに反応して海洋性のプランクトンである夜光虫が青白い光を放ちます。

- ・日時：未定
- ・場所：レーヌ六本木ビル B1F

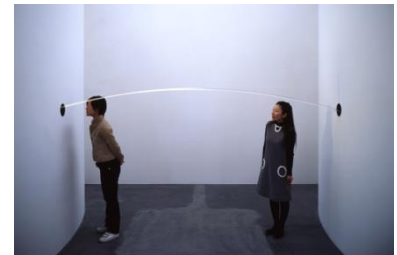


《From Strings to Dinosaurs》, 2014,
Composition: Tyler Friedman,
Photo: Andreas Greiner

■イェッペ・ハイン《Continuity Inbetween》

空間の中にもう一つの空間を作る建築的なインスタレーション作品。ゆるやかなカーブを描き向き合った二面の壁には、それぞれ 10 センチの小さな穴が空いており、その穴から直径 2 センチのジェット水流が噴き出て、2 つの壁を繋いでいます。激しく高速な水流は、約 3 メートルの距離をほぼ水平に流れ、鑑賞者はスピードと重力の法則を視覚的に体感することができます。

- ・日時：10 月 21 日（金）～23 日（日）
- ・場所：レーヌ六本木ビル 4F



《Continuity Inbetween》, 2006
Courtesy: SCAI THE BATHHOUSE, Tokyo

■ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイス《事の次第》

何の変哲もない椅子、ガラスビン、ペットボトルやバケツ、タイヤなどのがらくたや日用品が、下に落ちたり、上に跳ねたり、燃えたりと、次々とドミノ倒しのように連鎖反応を起こしていく様を捉えたビデオ作品。重力、遠心力、水力、化学変化によって引き起こされる発泡、煙、火など、モノからモノへさまざまな形でエネルギーが伝達されていきます。人の気配は感じられず、モノがパフォーマンスを行っているかのようにも見えます。

- ・日時：10 月 21 日（金）～23 日（日）
- ・場所：芋洗坂の駐車場



《事の次第》, 1987
Courtesy: T&C Film, Zurich

■小川勝章《とんでみる》

六本木の交差点=アートナイトの入口=お出迎えの場所。そこに出現する作品は、六本木の街、六本木の森への道しるべとなります。時計や植物はつかの間のアートナイトの時間に入り込む境界を表わすものと捉え、「プレイグラウンド」のスタート地点の象徴として、作家・小川勝章による「見立て」プランを展開します。

- ・日時：10 月 21 日（金）～23 日（日）
- ・場所：六本木交差点



※画像はイメージ

■若木くるみ《車輪の人》

ハムスターの運動器具のような装置の中で、作家本人が走り続けて車輪を回転させる作品です。車輪の外周には木版画が貼られており、写真が完璧な速度で回転するとアニメーションのように見えることを想定していたが失敗したことから、とにかく会場で作家本人がひたすら走り続けて観客を驚かせることがこの作品のコンセプトとなりました。2 日間走り続けるという、限界に挑戦する作家本人のパフォーマンスを目の当たりにできる力のこもった作品です。

- ・日時：10 月 21 日（金）～23 日（日）
- ・場所：ラピロス六本木



《車輪の下へん》, 2011
Courtesy: Gallery Jin, Tokyo

■蓮輪康人《Roppongi Sign Girl - 六本木看板娘プロジェクト -》「オープン・コール・プロジェクト」*2 採用プログラム

昼夜を問わず多くの人々が行き交う六本木。きらびやかな看板が軒を連ね、様々なサービスがこの街で展開されています。一方、私たちはそのサービスばかりに目が行き、そこで生きる人々の顔を忘れてしまっているのではないのでしょうか。六本木に実在する「看板娘」を「看板」にすることで、今一度六本木で生きる人々の顔を見つめるプロジェクトです。

- ・日時：10 月 21 日（金）～23 日（日）
- ・場所：六本木街なか各所





街なかパフォーマンス

六本木の様々な場所でパフォーマンスが展開されます。「オープン・コール・プロジェクト*2」採用プログラムも登場し、非日常的なシーンを作り出します。

■SLOW LABEL 《SLOW MOVEMENT 六本木公演》

詩人・三角みづ紀が書き下ろした一編の詩「The Eternal Symphony」を、サーカスアーティスト・金井ケイスケを中心に、一般から選ばれた年齢、性別、職業、障害の有無を越えた多様なパフォーマーと、様々な分野のクリエイターがワークショップを重ねながらつくる参加型パフォーマンスです。見る見られるの境界を超えて、人の動きや気配が共鳴し自然の光と音が紡がれ、楽譜の迷宮に迷い込んだような身体と五感を使って楽しむ交響曲、人間の身体と先端技術の融合によって描かれるオーガニックな世界が、東京2020 オリンピック・パラリンピック以降の人と生命と世界のあり方を人々に問う作品です。

- ・日時：10月22日(土) ※時間は後日決定となります。
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ、66 プラザ



撮影：427FOTO(ヤマウキタカミツ)

■川口隆夫《TOUCH OF THE OTHER / 他者の手》

2016(平成28)年1月に東京で初演された国際共同プロジェクト「TOUCH OF THE OTHER」から1シーンを抜粋。ロサンゼルス ONE Archives に所蔵されている社会学者ロード・ハンフリースの調査研究資料をもとに、ジョナサン M. ホールとともにロサンゼルス及び東京で制作されました。世界各地において LGBT の社会的権利が確立していく中で、あえて、これまでの“逸脱した”文化に焦点を当て、これからの未来を社会に問うた作品です。

- ・日時：10月21日(金) 20:00～ / 22:00～
- ・場所：三河台公園



写真：謝宣光

■石山雄三／A.P.I. 《0dB／プロトタイプ》

「0dB／プロトタイプ」では、2010年代だからこそ可能になった、ダンス作品の新しいアプローチを提案します。臨場感／ライブ性とは、一体何なのか？ 特別な音響システムで作り出される「無音」と「轟音」の中で展開されるダンスは、凍り付くような静けさと暴力的なまでの力強いダイナミズムが同居し、どこにも「居場所がない」疾走感を浮き彫りにします。

- ・日時：10月22日(土) 20:00～ / 22:00～
- ・場所：三河台公園

※サウンドデバイスをお貸し出しするため、定員は100名までとさせていただきます。



「QWERTY」写真：片岡陽太

■平本瑞季《寿司パフォーマンス》

ピーツ！ 笛の音と共にどこからともなくやってくる一見普通の人々が、突然寿司になる!? さまざまな場所でいきなり寿司に変身すること、その行為はなんだか滑稽でありながらも、通りすがりの人をクスッと笑わせ、偶然そこでパフォーマンスを見かけた誰かに特別な瞬間をプレゼントします。「寿司たち」は、あなたに会いに、六本木アートナイトに繰り出します！

- ・日時：未定
- ・場所：六本木街なか各所



寿司パフォーマンス「寿司」@あづま寿司
写真：チバガク

■スイッチ総研《六本木アートナイトスイッチ 2016》

「スイッチ」を押すと何かが起こる 3～30 秒のハプニング的パフォーマンス。昨年のオープンコール・プロジェクトで採択され、大好評を博し再び登場。六本木街なかの店舗や施設など様々な場所に設置された「スイッチ」から始まる一瞬の“演劇”是老若男女問わず楽しめるプログラムです。

- ・日時：未定
- ・場所：六本木街なか各所



撮影：濱田英明



■ 中西俊博、島口哲朗、劔伎衆かむゐ、吉村恵美《SAMURAI IN ROPPONGI!!!!》

「オープン・コール・プロジェクト」*2 採用プログラム

殺陣と音楽による、パフォーマンスアートです。出演はバイオリニスト中西俊博、殺陣の島口哲朗と、彼が率いる劔伎衆かむゐのメンバー。六本木の街を練り歩き、辻斬りならぬ、辻ライブパフォーマンスを繰り広げます。「ネオン煌めく華やかな六本木も、江戸時代には、多くの大名屋敷、武家屋敷が建ち並び、武士、サムライの街だった。思い浮かべてみてほしい、六本木に帰ってきたサムライたちの姿を。彼らは一体、何を斬るために、ここ六本木に、帰ってきたのだろうか。」

- ・日時：未定
- ・場所：未定



■ 流 麻二果×(遠田 誠+鈴木 美奈子)《六本木借景絵》

「オープン・コール・プロジェクト」*2 採用プログラム

街並みや六本木アートナイトに行き交う人々を借景しながら、六本木の一夜の景色を一枚の絵画のように魅せていくパフォーマンス。会場のあちこちで繰り上げられるパフォーマンスは、時には一枚の絵となり、時にはそれぞれが作品と化し、一瞬毎に違う景色(絵)を生み出します。街に潜んでいた都市のはざ間にある自然の姿を削り出し、息吹を切り取り、改めて見つめるように展開されるパフォーマンスは、踊ること、描くことで六本木の街の美しさを再発見し、改めて感じ合うための作品です。

- ・日時：10月22日(土) ※時間は後日決定となります。
- ・場所：未定



■ 三陸国際芸術祭 in 六本木アートナイト 2016《シシの系譜》

同時開催プログラム*1

歴史と風土から生まれ、今も脈々と受け継がれる三陸沿岸の郷土芸能の魅力の発信と、芸能を通じた海外や他地域との交流を目的に、2014(平成26)年から毎年開催している芸術祭の一部を東京で紹介します。仮面を冠り装束をまとい、太鼓や銅鑼や笛の音で場を満たし、人々は何を感じ何を求めているのか。岩手県を代表する臼澤鹿子踊(大槌町)とインドネシア・バリ島の獅子パロン、ガムラン楽団、ダンサーによる作品「シシの系譜」が六本木を華麗に舞います。

※公演後には一般参加によるガムラン音楽などのワークショップも計画。会場、時間等、詳細は追って発表します。

- ・日時：10月22日(土) 12:00~13:00
 - ・場所：六本木ヒルズアリーナ
 - ・主催：NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)
 - ・協力：国際交流基金アジアセンター
- 平成28年度文化庁国際芸術交流支援事業



©小原孝博



街なかミーティング

参加者が加わってはじめて成立するアートプログラム。出会い、語らい、聴き、動き、体感する…。鑑賞という一方通行だけではないアートのかたちが、ここに 있습니다。

■ ROPPONGI ART NIGHT CAFE supported by Seibu & Sogo

六本木ヒルズのヒルズカフェ/スペースが、今年も六本木アートナイトのためのイベント&カフェスペースに変身します。古来から蓄積された日本の伝統的な美を追求することで、古典的かつ現代的な新しい表現を生み出すアーティストたちが集まり、アートナイトの夜には様々なペインティング、音楽、パフォーマンスのひしめくパーティーが展開されます。和楽器と洋楽器によるフュージョン、日本の伝統文化のモダンイズなど、日本と海外が混じりあう3日間です。22日(土)の昼には参加型のワークショップも開催し、子供から大人までアートで楽しめます。

- ・日時：10月21日(金)~23日(日) ※時間は後日決定となります。
- ・場所：六本木ヒルズ ヒルズカフェ/スペース





■アーティストトーク

①テーマ・トーク

実行委員長南條史生、メインアーティスト名和晃平、作品制作に参加したアーティストが集い、今年の六本木アートナイトのテーマやメイン作品などについて語ります。

- ・日時：10月22日(土) 21:00～
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ

②ファイナル・トーク

今年の六本木アートナイトに参加したアーティスト有志による、日曜日明け方のトークイベント。さて今年は体力のあるアーティストが何人集まるか。

- ・日時：10月23日(日) 4:00～
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ

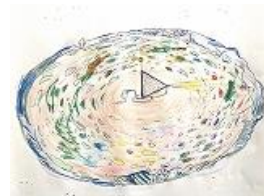
■六本木プレイパーク ウェストグラウンド

岩田とも子《地球の植木鉢-もうひとつの地面のはじまり-》

山田卓生《その日、公園がもっと楽しいアートな村になる》

岩田とも子の植木鉢の「プレイ」ボタンを作動させ、ウェストグラウンドに「もうひとつの地面」を出現させたり、山田卓生の作品に包まれて、アートな村の村人になったり。地球の地面がフィールドであるふたりの作品は、来訪者の関わりで進化します。探検心を満たすのもよし、タープの下で憩うのもよし。防災公園でもあるウェストグラウンドで「アート型防災訓練」に参加して、生きる力(ポテンシャル)もUP！

- ・日時：10月21日(金)、10月22日(土) ※時間は後日決定となります。
- ・場所：六本木西公園



岩田とも子

《太陽系を地面にインストールする》



山田卓生

《日食へのオマージュ》

■六本木アートナイトをもっと楽しむガイドツアー

昨年に引き続きガイドツアー「六本木アートナイトをもっと楽しむツアー」を開催します。ACOP という独自のアート鑑賞法を踏まえ、平野智紀によって事前トレーニングを積んだボランティアガイドは、一般的なガイドツアーとは異なり、作品の知識を参加者へ一方的に説明するのではなく、参加者と共に対話を楽しみながら展示作品や六本木の街の魅力に迫っていきます。参加者のキャラクターや参加人数によっても様相が変化していくガイドツアーは、一度のみならず何度参加しても毎回様子が違ってくることでしょう。あなたもガイドツアーに参加して、六本木アートナイトをしゃべり倒してみませんか？

- ・日時：未定
- ・ツアー開始場所：未定



昨年の様子

■日本フィルハーモニー交響楽団《クラシックなラジオ体操》

朝を迎えるにふさわしいクラシック音楽と、新たな気持ちで一日をスタートするためのラジオ体操の音楽を、弦楽四重奏とトロンボーンで演奏します。素敵なクラシック音楽を聞き、そしてラジオ体操で身体を動かし、健やかに朝を迎えましょう！

- ・日時：10月23日(日) 5:15～6:00
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ
- ・協力：日本フィルハーモニー交響楽団





【「六本木アートナイト 2016」各館プログラム】

六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街の各所でも、「六本木アートナイト 2016」の特別プログラムとして、様々なコンテンツを用意しています。

【六本木ヒルズ プログラム】

六本木ヒルズでは普段の風景を一変してしまうインスタレーションやパフォーマンス、参加型のプログラムなどを展開していきます。

インスタレーション

■ピーター・マクドナルド《未定》

ピーター・マクドナルドの絵画作品のイメージを使った新作インスタレーションが 66 プラザに登場します。

- ・日時：10月21日(金)～23日(日)
- ・場所：六本木ヒルズ 66 プラザ



Courtesy: Kate Macgarra, London

■山本基《迷宮》

「塩で道を描くことは、私自身の大切な記憶をたどる旅のようなものです。しかし、記憶の核心に到達できるかどうかは分かりません。なぜなら、私が描く塩の線は床の凸凹や湿度、そして私の心の動きにも影響を受けて意図しない方向に曲がり、時に途切れてしまうからです。必然と偶然が絡まり合った塩の道。私は作品が完成した後、それを静かに辿ることにしています。」 — 山本基

- ・日時：10月21日(金)～23日(日)
- ・場所：六本木ヒルズ けやき坂コンプレックス B1F



《迷宮》, 2013, 広島県立美術館

■久保ガエタン《Smoothie(2012 /2013)》

立方体の小屋の中の物が、回転(攪拌)によって飛び交い、窓に取り付けられたカメラで、中の攪拌映像をみることができます。カメラは窓と同じ位置で回転をするため、部屋の内観は全く変化をしなくとも、物だけが飛びかうボルターガイストのような現象が起きるのです。また一部の家具は取り付けられて動かないため、重力のバランスも崩れた部屋のように見えます。作家は、精神分析や超心理学やジェンダーなど 20 世紀前半の歴史観を研究し、この作品を制作しました。

- ・日時：10月21日(金)～23日(日)
- ・場所：六本木ヒルズ ウェストウオーク 2F 北側吹抜け



《Smoothie》
Courtesy: Kodama Gallery, Tokyo

パフォーマンス

■島地保武 《Solo with》

Noism やザ・フォーサイス・カンパニーのダンサーとして世界を舞台に活躍し、今年はラッパーの環 ROY との意欲的な作品で注目を集めている振付家、ダンサーの島地保武によるソロパフォーマンス。本作は、「場」から発せられる「なにか」と、ダンサー島地とのコミュニケーションから生まれる動きを脳を通して声に変換。音をループさせることで動きとのコラボレーションを生み出す実験的な試みです。

- ・日時：10月21日(金) 21:00～
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ



張力中

■大植真太郎・森下真樹《ぶつる》

10 月に北九州芸術劇場で発表する新作『どこをどうぶつる』のスピノフ作品です。見るもの・見られるもの、それは動物園も舞台もさして変わらない。舞台を下りればそこには自由があるが、見えない時間という檻の中にいると気づく。世界は広いといえど、檻の中とさして変わらないかもしれない。どう価値観を共有するか、不自由だからこそ自由になりたい、そんな感性を可視化し表現します。

- ・日時：10月21日(金) 23:00～
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ



©matron2016



撮影: 427FOTO



■珍しいキノコ舞踊団 《珍しいキノコ舞踊団のそれゆけ！アート・ナイトメア？》

「アナタがアートナイトで観る夢は、いいナイトメア？それとも悪いナイトメア？」長きにわたり、シーンを牽引してきたダンスカンパニー、珍しいキノコ舞踊団による六本木ヒルズアリーナでのパフォーマンス。アリーナのインスタレーションを舞台に、珍しいキノコが優しく甘い胞子を拡散。観客をあやしい眠りに誘います。六本木アートナイトだけのエクスクルーシブなセッションに、乞うご期待！

- ・日時：10月22日(土) 22:00～
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ



■サルヴァニラ 《オーオーアイオーオー》

六本木ヒルズのオープニング(2003)で発表された作品「inter/action」で観衆を騒然とさせたサルヴァニラが、活動休止から11年の沈黙を破り、再び六本木ヒルズアリーナに降臨。本作は、六本木アートナイトならではの深夜帯での上演のため、身体に重点を置いたシンプルでソフィスティケートされた作品となります。再始動サルヴァニラの新たな軌跡の始まりに注目です。

- ・日時：10月22日(土) 23:00～ / 23日(日) 1:00～
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ



■井上真鳳 《ストライブ》

音で世界を構築し、その中を旅するクラウン。現実と非現実が交錯する世界で最後に出会うものは？パントマイムとDJとVJをミックスした新作。本年夏のフランス・アヴィニオンフェスティバルで発表した作品を六本木アートナイト仕様に仕立て直して上演。

- ・日時：10月23日(日) 0:00～ / 2:00～
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ



■近藤良平とその仲間たち 《六本木夜舞場(ろくほんもくやまいば)Vol.4(真夜中の盆踊り)》

六本木アートナイト恒例、今年も深夜に突如踊り舞台が現れる。コンドルズを主宰する振付家・ダンサーの近藤良平を音頭取りに、熱く静かに真夜中の盆踊り。踊らにや損損！

- ・日時：10月23日(日) 3:00～
- ・場所：六本木ヒルズアリーナ



【森美術館 プログラム】

森美術館では、『宇宙と芸術展:かぐや姫、ダ・ヴィンチ、チームラボ』を開催中。10月21日(金)、22日(土)は開館時間を延長いたします。

期間中の展覧会

■宇宙と芸術展:かぐや姫、ダ・ヴィンチ、チームラボ

天才ダ・ヴィンチが描いた天文学手稿を日本初公開！チームラボによるインタラクティブな新作インスタレーションも展示。宇宙は古来、人間にとって永遠の関心事であり、また信仰と研究の対象として、世界各地の芸術の中で表現され、多くの物語を生み出してきました。本展では、隕石や化石、ダ・ヴィンチやガリレオ・ガリレイ等の歴史的な天文学資料、曼荼羅や日本最古のSF小説ともいえる「竹取物語」の絵巻、そして現代アーティストによるインスタレーションや、宇宙開発の最前線に至るまで、古今東西ジャンルを超えた多様な出展物約200点を一挙公開。六本木を宇宙の入り口として「私たちはどこから来てどこへ向かうのか」を探る旅となる本展をお楽しみください。

- ・開催期間：7月30日(土)～2017年1月9日(月・祝)
- ・開館時間：10:00～22:00(入場は閉館の30分前まで)
※火曜日のみ17:00まで開館
※「六本木アートナイト2016」開催に伴い、
10月21日(金)は10:00～翌1:00、
22日(土)10:00～翌6:00まで開館延長
- ・休館日：会期中無休
- ・場所：森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)
- ・参加料：一般1,600円、学生(高校・大学生)1,100円、
子供(4歳～中学生)600円



チームラボ《追われるカラス、追うカラスも追われるカラス、そして衝突して咲いていく - Light in Space》2016年



【東京ミッドタウン プログラム】

東京ミッドタウンでは、様々なアートプログラムの他、同時開催中の「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2016」の六本木アートナイト特別プログラムなど、多様なコンテンツをお楽しみいただけます。

■ストリート・アートパフォーマンス

東京ミッドタウンのB1Fに「アートの遊び場」が出現！ Tokyo Midtown Award 2015 入選作家5人によるオープン・パフォーマンスを行います。

上坂 直《常迷宮》

上坂直の作品は、普段見慣れている物質の扉を開けると、突然違う風景とつながり、新たな世界が生まれる体験を生み出します。六本木アートナイトでは、家具や本といった日常的なアイテムを用いた公開制作を行います。一見すると、誰の部屋でも見られるような何の変哲もないものばかりですが、角度を変えて覗き込めば普段目にする“いつも”から抜け出せるかもしれません。

- ・日時： 10月21日(金) 17:30～23:00
10月22日(土) 17:30～23:00
- ・場所： 東京ミッドタウン プラザ B1F メトロアベニュー
- ・参加料： 無料



※画像はイメージ

尾花賢一《君を探して》

覆面の人物の彫刻が、東京ミッドタウンのB1Fを走り回ります。予測不能な動きをする彫刻作品はまるで生命が宿ったかのように。何万人もの人々が織りなすアートへの熱狂の中、その隙間を動き回る彫刻。目撃者たちは作品を追いかけたり、探したり、特別な瞬間を写真にとり、SNSへアップすることで、作品は東京ミッドタウンから世界へと飛び出していきます。観客たちは、交わりそうで交わらない、彫刻たちが織りなす物語にいつの間にか参加してしまっている、パフォーマンスのような参加型作品です。

- ・日時： 10月21日(金) 17:30～23:00
10月22日(土) 17:30～23:00
- ・場所： 東京ミッドタウン プラザ B1F メトロアベニュー
- ・参加料： 無料



『近くて遠い』

風間天心《日常茶飯事》

風間天心は、アーティストであり、僧侶でもあります。多くの外国人も訪れる六本木アートナイトに際し、坐禅を組みながら食事を行い、僧侶ならではの独特の作法に基づき「日々の食事の意味を噛み締めること」を訴えかけるパフォーマンスを実施します。風間天心が実践する厳格に守られた日常の「美」。一体この「美」は誰に向いているのか。パフォーマンスを通じてその意義をぜひ感じてください。

- ・日時： 10月22日(土) 17:30～23:00の間に3回
- ・場所： 東京ミッドタウン プラザ B1F メトロアベニュー
- ・参加料： 無料



※画像はイメージ

田島大介《孤独の景色Ⅱ》

プレイグラウンドをテーマに盛り込んだペン画を公開制作します。息もできないほど細かな作品が生み出される光景を、人々は間近で体験し、アーティストの驚異の力を感じ取り、想像の世界を体験することができます。

- ・日時： 10月22日(土) 17:30～23:00
- ・場所： 東京ミッドタウン プラザ B1F メトロアベニュー
- ・参加料： 無料



田島大介 金屬強權超視圖 2016 個人蔵

三上俊希《生命体X》

三上作品の面白さは、その呼吸のような不思議な動きにあります。六本木アートナイトのテーマに合わせ、子供の頃誰もが一度は遊んだことのあるであろう、懐かしい吹き戻しおもちゃを使った参加型アートを設置します。観客が手動のポンプで作品に空気を入れると、吹き戻しがピューピュー飛び出す仕掛けとなっています。観客の参加により、謎の「生命体X」に息吹が与えられ、六本木アートナイトで動きはじめます。

- ・日時： 10月22日(土) 17:30～23:00
- ・場所： 東京ミッドタウン プラザ B1F メトロアベニュー
- ・参加料： 無料



※画像はイメージ



■Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2016

Rhizomatiks Architecture《CURTAIN WALL THEATRE (カーテンウォールシアター)》

東京ミッドタウンで同時期に開催されている「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2016」のメインイベント「カーテンウォールシアター」。広大な芝生広場にカーテンが並べられた巨大なインスタレーションが登場します。Rhizomatiks Architecture が手掛ける初の大型インスタレーションは、脳波センサーでカーテンが開閉され、空間が変化する「体験型の野外劇場」です(10/14～11/6)。六本木アートナイト時(10/21・22)は、特別なライトアップを施し、スペシャル演出を実施します。

- ・開催期間: 10月14日(金)～11月6日(日)
- ・開催時間: 11:00～18:00(雨天一部中止)
18:00～21:00 はライトアップ展示
※「六本木アートナイト2016」開催に伴い、
10月21日(金)、22日(土)は、18:00～22:30
までスペシャル演出を実施
- ・場所: 東京ミッドタウン 芝生広場
- ・参加アーティスト: Rhizomatiks Architecture
- ・参加料: 無料
※脳波センサーは各日 11:00～18:00、一度に一人のみ体験可能



Rhizomatiks Architecture
齋藤精一

JAGDA Kasama/Kawara Exhibition

奈良時代が起源とも言われる「八郷瓦」と、茨城県の国指定伝統工芸品「笠間焼」という日本の伝統工芸品を、日本を代表するクリエイターがデザイン。「伝統」と「デザイン」の新しいありかたをご覧ください。六本木アートナイト時は特別に、小川エリアにて幻想的なライトアップを実施する予定です。

- ・開催期間: 10月14日(金)～11月6日(日)
- ・開催時間: 11:00～22:30
※ライトアップは10月21日(金)、22日(土)18:00～22:30
- ・場所: 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン
- ・参加アーティスト: 青木克憲、秋山孝、上條喬久、新村則人、谷口広樹、
藤代範雄、U.G.サトー 他
- ・参加料: 無料



【サントリー美術館 プログラム】

『鈴木其一 江戸琳派の旗手』展を開催中のサントリー美術館では、展覧会にちなんだ六本木アートナイト特別ワークショップの開催や、開館時間の延長、さらに観覧料が10月22日(土)に限り一律500円となります。

■コチラとムコウ in サントリー美術館 ～ムコウ側の景色をコチラ側の窓に描こう～

館内の窓が大きなキャンパスに！窓のムコウ側に見える景色をコチラ側の窓ガラスに特殊なマーカーで描きます。何気なく観ている風景の中にも新発見間違いなし！？

- ・日時: 10月22日(土) 11:00～16:00
- ・場所: サントリー美術館 6階ホール
- ・参加アーティスト: 中島 麦
- ・参加料: 無料(ただし、当日の入館料が必要)
※展示は10月23日(日)まで



■みんなで挑戦！りんぱ体操

「鈴木其一 江戸琳派の旗手」展の展示作品をモチーフにした「りんぱ体操」でからだを動かし名画を体感しましょう！

- ・日時: 10月22日(土)
17:00～、18:00～、19:00～、20:00～、21:00～、22:00～ (各回約30分)
- ・場所: サントリー美術館 6階ホール
- ・参加アーティスト: 高橋 唐子
- ・参加料: 無料(ただし、当日の入館料が必要)





■江戸の紋切り遊びで、日本のかたちを遊ぶ

江戸時代から続く切り紙・紙紋切りを体験するワークショップ。日本の文様で旗と吊るし飾りをみんなでつくり、展示します。

- ・日時： 10 月 22 日（土）
12:00～、15:00～、18:00～、21:00～（各回約 2 時間）
- ・場所： サントリー美術館 1 階レクチャールーム
- ・参加アーティスト： 下中 菜穂
- ・参加料： 無料

※展示は 10 月 23 日（日）まで



■体験型ミニレクチャー「はじめてひらく 美のとびら」屏風の巻

日本美術の 1 ジャンルを題材に、簡単な体験を交えながら楽しく学ぶ初心者向けレクチャー。屏風の仕組みや豆知識を知って、ミニ屏風づくりに挑戦！

- ・日時： 10 月 21 日（金）
11:00～、13:00～、15:00～、17:00～、19:00～（各回約 30 分）
- ・場所： サントリー美術館 6 階ホール
- ・参加料： 無料（ただし、当日の入館料が必要）



写真：御厨慎一郎

■フレンドリートーク

スライドを使った子供から大人まで楽しめる「鈴木其一」展のやさしい展示解説。

- ・日時： 10 月 23 日（日） 11:00～、13:00～、15:00～（各回約 20 分）
- ・場所： サントリー美術館 6 階ホール
- ・参加料： 無料（ただし、当日の入館料が必要）



写真：御厨慎一郎

期間中の展覧会

■鈴木其一 江戸琳派の旗手

鈴木其一（1796～1858）は、琳派様式を江戸で再興した酒井抱一の最も優れた弟子として知られています。その画風は琳派の華麗な伝統を継承しながらも、鮮やかな色彩対比や、ゆたかなデザイン性など、現代にも通じる斬新さにあふれており、近年、とくに注目を集めている存在です。本展は国内外から、其一の代表作品がかつてない規模で一堂に揃う待望の展覧会であり、その知られざる画業の全貌に迫ります。

- ・開催期間： 9 月 10 日（土）～10 月 30 日（日）
- ・開館時間： 10:00～18:00（入場は閉館の 30 分前まで）
※金・土曜日は 20:00 まで開館
※「六本木アートナイト 2016」開催に伴い、
10 月 22 日（土）は 22:00 まで開館延長
- ・休館日： 火曜日
- ・場所： サントリー美術館
- ・参加料： 一般 1,300 円、大学・高校生 1,000 円、中学生以下無料
※10 月 22 日（土）は入館料 500 円





【21_21 DESIGN SIGHT プログラム】

通常 19:00 閉館のところを、10 月 21 日(金)、22 日(土)は特別に 22:00 まで開館延長し、企画展「デザインの解剖展：身近なものから世界を見る方法」のギャラリーツアーやトークプログラムを開催いたします。

■デザイン解剖室へようこそ！「デザインの解剖展」ギャラリーツアー

デザインジャーナリストで21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクターの川上典李子によるギャラリーツアーを開催します。本展企画制作協力の岡崎智弘と、参加作家からはプロダクトデザイナーの鈴木啓太、グラフィックデザイナーの中野豪雄とともに、みなさまのご質問にお答えしながら展示作品を解説します。

- ・日時：10 月 21 日(金) 18:00～19:30
- ・場所：21_21 DESIGN SIGHT
- ・案内：川上典李子、岡崎智弘、鈴木啓太、中野豪雄
- ・参加料：無料(ただし、当日の入場券が必要)



左から川上典李子、岡崎智弘、鈴木啓太、中野豪雄

■オープニングトーク「解剖展の解剖」

グラフィックデザイナーであり「デザインの解剖展」展覧会ディレクターの佐藤卓が、本展に参加しているグラフィックデザイナー、映像作家、テクニカルエンジニア、プロダクトデザイナーなど活躍のジャンルが異なる作家とともに、本展を解剖します。

- ・日時：10 月 22 日(土) 18:00～19:30
- ・場所：21_21 DESIGN SIGHT
- ・出演：佐藤卓、岡崎智弘、本展参加作家
- ・参加料：無料(ただし、当日の入場券が必要)



佐藤卓

岡崎智弘

期間中の展覧会

■デザインの解剖展：身近なものから世界を見る方法

私たちは日々、数え切れないほどの多くの製品に囲まれて生活しています。これらはあたり前の存在として暮らしに溶け込んでいますが、実はあらゆる段階で多様な工夫が凝らされています。それらをつぶさに読み解いていくのが「デザインの解剖」です。本展では、これまでに蓄積されてきた解剖の成果を紹介するとともに、新たに「株式会社 明治」の5つの製品に着目します。製品を取り巻く世界はもちろん、社会、暮らしとデザインの関係について、さらにはデザインの役割や可能性について、改めて深く考察する機会となることでしょう。

- ・開催期間：10 月 14 日(金)～2017 年 1 月 22 日(日)
- ・開館時間：10:00～19:00(最終入場は 18:30)
※「六本木アートナイト 2016」開催に伴い、
10 月 21 日(金)、22 日(土)は 22:00 まで開館延長
(最終入場は 21:30)
- ・休館日：火曜日、年末年始(12 月 27 日～1 月 3 日)
- ・場所：21_21 DESIGN SIGHT
- ・参加料：一般 1,100 円、大学生 800 円、高校生 500 円、中学生以下無料





【国立新美術館 プログラム】

六本木アートナイト特別プログラムとして、映像上映や、ワークショップ、文化庁主催による同時開催プログラムを行います。

■交換日記

近年目覚ましい活躍をみせている映像作家、百瀬文とイム・フンスンによるコラボレーション作品の展示。百瀬とイムの《交換日記》は、それぞれの活動拠点である日本と韓国、あるいは日々の生活で訪れた場所の映像を順に相手に送り、映像を受け取った側が相手の映像を編集して、自身の声でナレーションを加えることによって完成します。相手の視点で切り取られた風景に自らの物語をかぶせることで生まれるズレと重なりは、個人間のコミュニケーションが文化的、社会的、政治的な隔たりや親密性へと展開されていくさまを、時におぼろげに、時に鋭く表出させます。作品は、国立新美術館で2015(平成27)年に開催された「アーティスト・ファイル」展で初めて公開された映像に、続編を加えて展示されます。

- ・日時: 10月21日(金) 10:00~22:00
10月22日(土) 10:00~22:00
10月23日(日) 10:00~18:00
- ・場所: 国立新美術館 3階研修室 A
- ・参加アーティスト: 百瀬 文、イム・フンスン



百瀬文、イム・フンスン／《交換日記》／2015年～／ビデオ

■アーティスト・ワークショップ

膨らむ服の作品「パラフーク」をつくる美術作家の東明さんによる、子供から大人までどなたでも参加いただけるワークショップを開催します。

- ・日時: 10月22日(土) 13:00~17:00(予定)
- ・場所: 国立新美術館 1階ロビー
- ・参加アーティスト: 東 明



撮影: 大島拓也
京都芸術センター「てんとう虫プロジェクト『NEW HOME』」
展示風景、2014年

■TOKYO ANIMA! 2016

若手アニメーション作家15名~20名の新作・近作を一挙上映します。上映時間は90分程度を予定しています。インターネット以外の大スクリーンで日本の最新の短編アニメーションに触れられる数少ない機会です。

- ・日時: 10月21日(金) 18:00~22:00
10月22日(土) 18:00~22:00
10月23日(日) 12:00~18:00
※上映時間は変更となる場合があります。
- ・場所: 国立新美術館 3階講堂
- ・参加アーティスト: 未定

■国際シンポジウム「文化芸術活動を通じた多様性を尊重する社会の実現に向けて」(仮称)

同時開催プログラム*1

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、障害の有無にかかわらず、あらゆる人々が様々な場で文化芸術の創造・鑑賞活動に参加できる社会的包摂に係る取組を進めていくことが求められています。このため、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントとともに文化芸術による社会的包摂の取組を進めていくことにより、多様性を尊重する社会の実現、ひいては芸術文化のさらなる発展へとつながるよう、内外の有識者をお迎えし、障害のある方々による芸術活動や障害のある方々に関わる活動をテーマとしたシンポジウムを開催します。基調講演に英国グレイアイ・シアター・カンパニー芸術監督で、ロンドン・パラリンピック競技大会開会式の際に共同ディレクターを務めたジェニー・シーレイ氏ほかを予定。

- ・日時: 10月21日(金) 13:00~16:00
- ・場所: 国立新美術館 3階講堂
- ・参加料: 無料(要事前申し込み)
- ・主催: 文化庁 他



The Garden(グレイアイ・シアター・カンパニー)
撮影: Alison Baskerville



ジェニー・シーレイ
撮影: Micha Theiner



■バリアフリー映画上映会(仮称)

同時開催プログラム*

障害者権利条約において、締約国は障害のある方々が文化的な作品、映画、演劇やその他の文化的な活動を享受すること及び、劇場、映画館など文化的な公演が行われる場所を利用するための措置をとることなどがうたわれています。こうした中、国内の関連法制が整備されるとともに、各文化施設事業者の努力もあり、施設のバリアフリー化や映画の字幕付与率など年々高まりつつある状況にあります。このたび、文化芸術による社会的包摂の取組の一環として、最新技術によるバリアフリー字幕及び音声ガイドを用いることで、障害のある方々が不自由なく映画を鑑賞し、障害の有無にかかわらずあらゆる人々が共に楽しむことができる映画上映会を開催します。

- ・日時： 10月22日(土) 10:00~13:00
- ・場所： 国立新美術館 3階講堂
- ・参加料： 無料
- ・主催： 文化庁 他

期間中の展覧会

■ダリ展

スペインに生まれたサルバドール・ダリ(1904年-89年)は、もっとも有名な20世紀の芸術家の一人です。1929年に彗星のようにパリの美術界に登場し、シュルレアリスムを代表する画家として活躍しますが、やがてアメリカに進出、大きな成功と人気を獲得します。本展は、ガラ＝サルバドール・ダリ財団(フィゲラス)、サルバドール・ダリ美術館(フロリダ州セントピーターズバーグ)、国立ソフィア王妃芸術センター(マドリッド)という世界の3つの主要なダリ・コレクションから招来される作品を中心に、国内所蔵の重要作品を加えて、約250点によって多面的なダリの世界を紹介する、日本では約10年ぶりとなる本格的な回顧展です。

- ・開催期間： 9月14日(水)~12月12日(月)
- ・開館時間： 10:00~18:00
※金曜日は20:00まで開館
※「六本木アートナイト2016」開催に伴い、
10月21日(金)、22日(土)は22:00まで開館延長
※入場は閉館の30分前まで
- ・休館日： 火曜日
- ・場所： 国立新美術館 1階企画展示室 1E
- ・参加料： 1,600円(一般) 1,200円(大学生) 800円(高校生)
※中学生以下無料



■「ここから アート・デザイン・障害を考える三日間-」(仮称)

同時開催プログラム*

文化庁が国立新美術館において開催する、障害者とアート、デザインの未来をめぐる展覧会。オリンピック憲章では、「オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものである」とされています。これはアスリートだけではなく、すべての人に向けられた原則です。この根本原則に向けて、多くの人が新たな意識で生きるための一歩を踏み出すことを目標に、この展覧会を「ここから」と名付けました。本展は、現時点での日本の取組、成果の一端を紹介する、三つのパート「ここからはじめる Art」、「ここからつながる Design」、「ここからひろがる Life」から構成されます。障害を持つアーティストによるアート作品、最先端のスポーツ義足や車いすの優れたデザイン、障害のある人のアート作品とその表現の豊かさに共感するデザイナーとのコラボレーションの実例など、多様な創作との出会いの場となることを目指しています。

- ・日時： 10月21日(金) 10:00~22:00
10月22日(土) 10:00~22:00
10月23日(日) 10:00~18:00
- ・場所： 国立新美術館 2階企画展示室 2E
- ・参加料： 無料
- ・主催： 文化庁 他



山中俊治デザイン 義足
(撮影：加藤康)



藤岡祐機



【六本木商店街 プログラム】

■Roppongi Art Night Photo Spot(仮称)

六本木の街の中心「六本木交差点」に、「六本木アートナイト 2016」に参加した人たちが記念撮影を行う素敵なフォトスポットを設置いたします。

- ・日時： 10 月 21 日(金)～10 月 23 日(日)
- ・場所： ラピロス六本木(予定)

「同時開催プログラム」*1・・・外部企業や団体が主催し、「六本木アートナイト 2016」に併せて開催するプログラム。

「オープンコール・プロジェクト」*2・・・昨年に引き続き六本木アートナイト出展作品の公募を行う企画。今年は 4 プログラムが採用されました。

※ 全てのプログラムは天候等諸事情により変更または中止となる場合がございます。

また、本リリース掲載内容は 8 月 4 日時点のものであり変更になる場合がございますので、予めご了承ください。



<TOPICS>

「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」(主催:文部科学省)協賛イベントに認定されました

生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案と、大都市東京における街づくりの先駆的なモデル創出を目的とする「六本木アートナイト」。

今回「六本木アートナイト2016」は、私たち「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」と連携して開催することとなり、2020年そしてその先に向け、文化GDPの成長や新しい社会や文化の創発といった「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」の目的を実現するためにも、お互いに協力し、一体となって盛り上がっていききたいイベントです。

また、「六本木アートナイト」は街全体で非日常的な体験を作り出し、参加者が六本木の街を歩き、気軽に多様な芸術に触れる機会を提供することから、「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」に参加していただく皆様が「六本木アートナイト」に参加できれば、参加する皆様にとって貴重な機会になると考えております。

このため、今回、「六本木アートナイト2016」を、スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの協賛イベントとして認定し、お互いに成功を目指し、同じ時期に同じ場所で開催し連携を図っていくことになりました。

平成28年6月10日

文部科学省大臣官房スポーツ・文化・ワールド・フォーラム準備室

■スポーツ・文化・ワールド・フォーラムとは

「スポーツ」と「文化」は、世界の希望です。なぜでしょうか？

それは、強い感動を与えてくれるから。その感動が、人と人をつなげてくれるから。

違いを凌駕しながら、絆を生んでくれるから。

絆がビジネスを育ててくれるから。

スポーツ・文化・ワールド・フォーラム。

それは、「スポーツ」と「文化」を通じて、日本を起点に、チーム世界で、次の豊かさを生み出していく会議です。



World Forum on Sport and Culture

スポーツ・文化・ワールド・フォーラム



・日時、会場:

10月19日(水)~20日(木): 京都(ロームシアター京都等)

10月20日(木)~22日(土): 東京(六本木ヒルズ等)

・主催: 文部科学省、スポーツ庁、文化庁

・共催: 京都府、京都市、日本財団、ETIC

・協力: 世界経済フォーラム

スポーツ・文化・ワールド・フォーラムに関する詳細は公式HPよりご確認ください。

(URL: <http://wfsc2016.mext.go.jp/>)